

I

辰野金吾とその学び

辰野金吾は1854（嘉永7）年に唐津藩に生まれ、唐津藩洋学校耐恒寮で高橋是清らに学び、工部省工学寮（のち工部大学校）へ入学した。1877年に来日したイギリス人ジョサイア・コンドルを師として建築学を学び、第一期生として首席で工部大学校を卒業後、官費留学生としてイギリスへ留学した。帰国後、コンドルの後任として工部大学校教授に就任したが、日本銀行の設計者に決まると再び欧米視察の途につき、多くを学んだ。

1. 肖像画と肖像写真



辰野金吾肖像写真

1915年、還暦の記念に撮影された。



辰野金吾肖像画 松岡壽画 1921年

辰野家蔵

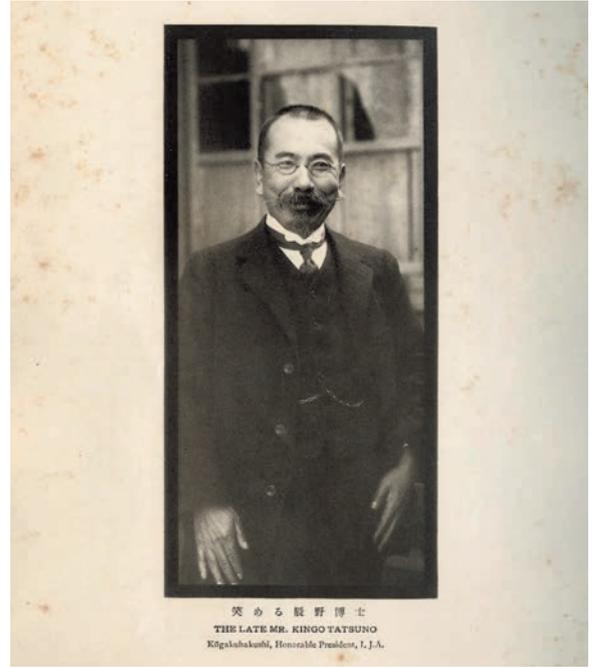
還暦記念の写真を基に描かれた。松岡壽（1862-1944年）は工部美術学校創設と共に入学、その後ローマに留学し、明治美術会を組織した。ローマで辰野金吾と共に建築を見学している。



辰野金吾肖像画と長男 辰野隆氏

辰野家蔵

長男でフランス文学者の辰野隆氏（1888-1964年）とその自宅での辰野金吾肖像画。



「笑める辰野博士」

『建築雑誌』388号 巻頭図抜刷 1919年4月

辰野家蔵

建築学会の学会誌『建築雑誌』へ逝去後に掲載された。辰野金吾は同学会（当初は「造家学会」）の創設に携わり、その後約20年会長も務めた。



辰野家アルバムより 辰野金吾

辰野家蔵

辰野家のアルバムより辰野金吾の肖像写真が集められたページ。『工学博士 辰野金吾伝』巻頭肖像写真を含む。



工部大学校時代



工部大学校卒業直後



2回目の洋行時

日本銀行の設計に際しての視察。
時期は『工学博士 辰野金吾伝』による。



東京帝国大学工科大学学長

1900年『東京帝国大学』
国立国会図書館蔵



辰野金吾（前列左）と高橋是清（前列右）

辰野家蔵
辰野金吾が日本銀行建築工事顧問、高橋是清が
日本銀行副総裁（1903-1904年）の頃か。

明治初期の建築

明治初期、政府が招いたお雇い外国人による洋風建築がつくられる一方、江戸時代以来の大工組織により洋風建築を真似た木造の「擬洋風建築」がつくられた。

◆日本人による擬洋風建築



為替座三井組 1874年竣工 900128
二代清水喜助
『東都名所駿河町三井ハウスノ図』四代国政

◆外国人による洋風建築



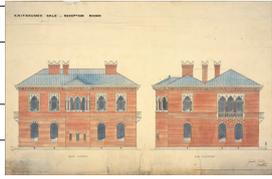
紙幣局 1876年竣工 900024
ウォートルス、ポアンヴィル設計
『紙幣局』井上安治 画



工部大学校講堂 1877年竣工
ポアンヴィル設計
東京大学建築学専攻蔵

辰野金吾はコンドル来日前に工部大学校でフランス人ポアンヴィルに学んでいる。

2. 辰野金吾のあゆみ 日本銀行との関わりを中心に

西暦	和暦	年齢	主要事項	日本銀行関連事項	日本銀行建築関連事項
1854	嘉永7	0	唐津藩の武士・姫松家の次男として誕生		
1868	明治元	14	叔父の辰野宗安の養子となる		
1871	4	17	唐津藩洋学校耐恒寮にて曾禰達蔵と共に高橋是清に学ぶ		
1873	6	19	工部省工学寮(のち工部大学校)第一期生として入学		
1877	10	23	コンドル来日、工部大学校に師事する		
1878	11	24			開拓使物産売捌所コンドル設計着手 辰野金吾も実習で関与
1879	12	25	工部大学校を首席で卒業		
1880	13	26	官費留学生としてイギリスへ、パージェスに師事する		
1882	15	28		日本銀行開業、大阪支店開設	旧開拓使物産売捌所を日本銀行本店として開業
1883	16	29	帰国		
1884	17	30	コンドルの後任として工部大学校教授に就任		
1885	18	31		日本銀行券(銀貨兌換券)発行開始	辰野金吾は本店本館にはじまり、25年間にわたり日本銀行建築に携わった。
1886	19	32	辰野建築事務所開設		
1888	21	34	竣工: 渋沢栄一郎		7月日本銀行本店設計者に 8月欧米へ調査出張
1889	22	35	パリ万国博覧会		10月帰国
1890	23	36			9月新本店着工、建築工事監督となる
1891	24	37			濃尾地震視察
1893	26	39		北海道内各地に出張所・派出所開設 西部支店開設(当初は下赤間関)	
1894	27	40		[日清戦争開戦] 京都出張所開設	
1895	28	41			
1896	29	42			竣工: 日本銀行本店本館★、 日本銀行附属建築工事監督
1897	30	43		名古屋支店開設、金本位制確立	
1898	31	44	建築学会会長に就任 東京帝国大学工科大学学長に就任		竣工: 日本銀行西部支店(門司へ移転)
1899	32	45		福島出張所開設	日本銀行建築工事顧問 竣工: 日本銀行本店南分館
1902	35	48	東京帝国大学教授依願退官		
1903	36	49	辰野葛西建築事務所(東京)開設	[1904 日露戦争開戦]	竣工: 日本銀行大阪支店(★)
1905	38	51	辰野片岡建築事務所(大阪)開設	広島出張所開設	竣工: 日本銀行広島出張所 竣工: 日本銀行名古屋支店 竣工: 日本銀行京都出張所★
1906	39	52			
1908	41	54			
1909	42	55	竣工: 奈良ホテル★、両国国技館		竣工: 日本銀行金沢出張所
1911	44	57			竣工: 日本銀行函館支店 竣工: 日本銀行小樽支店★ 日本銀行建築工事顧問解除
1912	45	58			
1913	大正2	59			竣工: 日本銀行福島支店
1914	3	60	竣工: 東京駅丸ノ内本屋(中央停車場)★		
1915	4	61	4.26 還暦記念写真、11.27 還暦祝賀会(上野精養軒)		
1916	5	62	後藤慶二「辰野金吾博士 作品集成絵図」(還暦記念に贈呈)		
1919	8	65	3.25 自宅にて逝去		
1921	10		松岡壽「辰野金吾肖像画」		
1923	12		関東大震災		本店被災
1926	15		『工学博士 辰野金吾伝』		本店本館震災後復旧工事完成
1928	S3		『辰野記念 日本銀行建築譜』		

★：現存、()は部分保存

3. イギリス人建築家からの学び

辰野金吾は工部大学校で最後の2年間をイギリス人建築家のジョサイア・コンドルに師事した。その後同大学校を首席で卒業し、官費留学生として約3年間イギリスで学んだ。イギリスではコンドルの師ウィリアム・バージェスから多くを学んだ。

(1) ジョサイア・コンドル

工部大学校での1877～1879年、辰野金吾はイギリス人コンドルから建築学を学んだ。

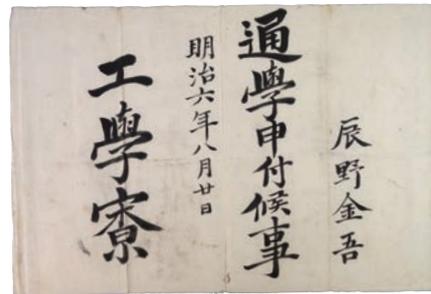


ジョサイア・コンドル

Josiah Conder
1852-1920年

ジョサイア・コンドルは、ロンドンに生まれ、ロンドン大学とサウスケンジントン・アート・スクール、さらに親戚でありロンドン大学の教授でもあった建築家ロジャー・スミス (Thomas Roger Smith) の事務所建築学を学んだ。その後、ウィリアム・バージェス (William Burges) の建築事務所2年間学んだ。英国王立研究家協会 (The Royal Institute of British Architects) の競技設計に応募し1876年にソーン賞を受賞した。ソーン賞はイングランド銀行などを設計したジョン・ソーン (John Soane) の遺贈した基金によって設立され、若手建築家の登竜門であった。

1877年1月に明治政府の招聘に応じて来日 (当時25歳)、工部大学校の教師となり、辰野金吾ら日本人建築家を育てた。1884年に工部大学校教授のポストを弟子の辰野金吾が引き継ぐこととなる。



辰野金吾 工学寮通学許可証

東京大学蔵 (旧辰野家資料)

辰野金吾は1873年に工学寮で通学生として学び始めた。工学寮は1871年に工部省下で技術官僚養成を目的として設置され、1877年に工部大学校となり、さらに1886年に文部省下の帝国大学工科大学に改編された。



開拓使物産売捌所 1881年竣工 コンドル設計

コンドルが来日後間もなく手がけた建築の1つで、1878年に設計に着手した。煉瓦造2階建。ヴェネツィアン・ゴシック様式。



永代橋際日本銀行の雪 井上安治画

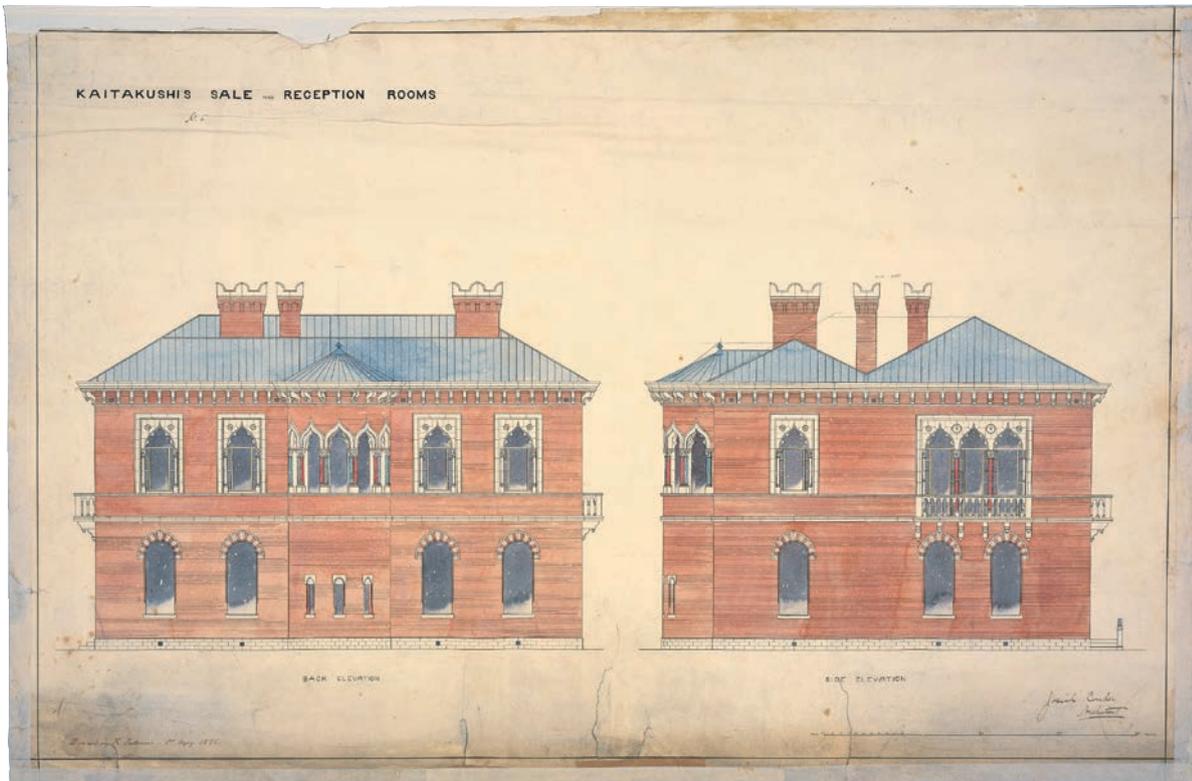
版画家井上安治 (1864-1889年) による東京名所シリーズの錦絵のうちの1点。



北海道の特産品を陳列・販売する開拓使の東京出張所施設として、箱崎町の隅田川の永代橋の袂に建設されたが、1882年2月に開拓使が廃止されたため、開拓使の建物として利用されたのは僅かな期間であった。1882年10月より1896年までの約14年間、同建物は日本銀行本店として使われた。日本銀行本店が1896年に辰野金吾による日本橋本石町の新店舗に移転した後も、同建物は引き続き日本銀行の施設として使われたが、関東大震災で焼失した。

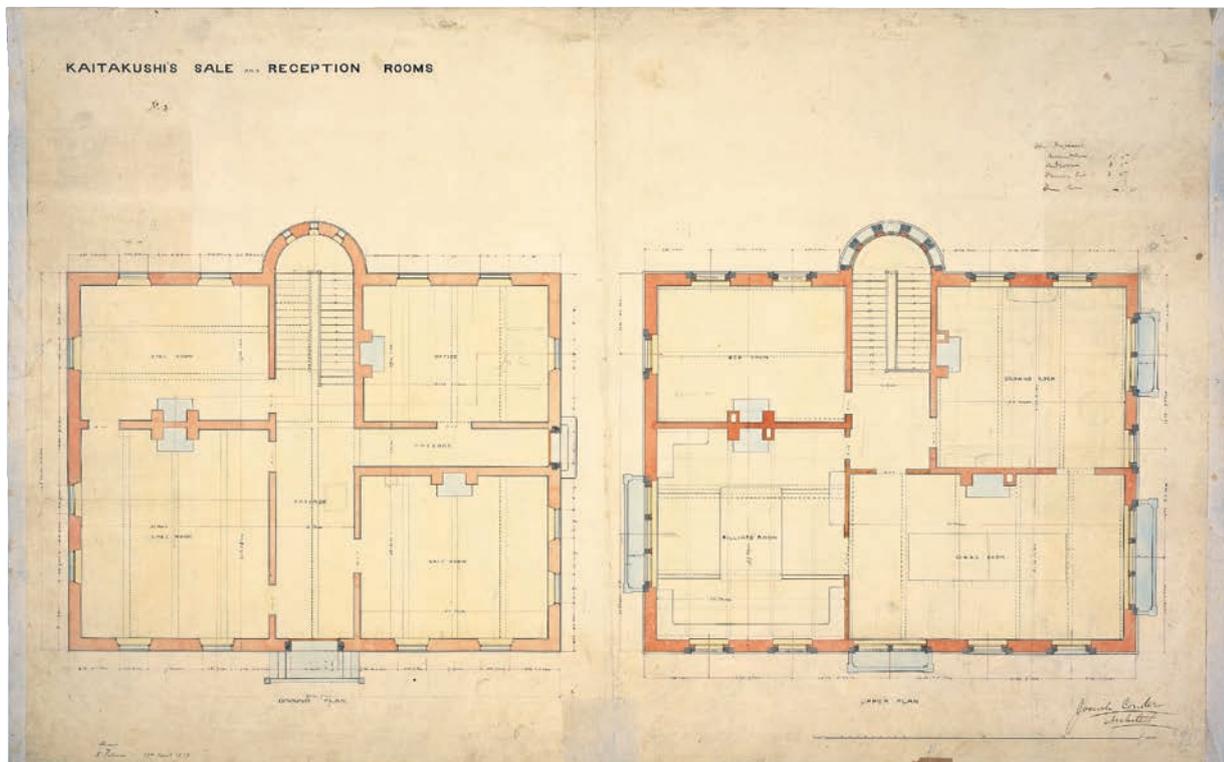
開拓使物産売捌所設計図

1878～1880年に製作された図面が、日本銀行アーカイブに52点所蔵されている。図面には、コンドルのほか、辰野金吾、佐立七次郎、久留正通ら日本近代建築を担った工部大学校造家学科1期生から5期生のうちの生徒14名のサインが見られ、コンドルの建築教育の一端を知ることができる。



KAITAKUSHI'S SALE AND RECEPTION ROOMS No.5 ワットマン紙・墨入・彩色、100×65、縮尺 1/50

左図下に "BACK ELEVATION"、右図下に "SIDE ELEVATION"、左下に "Drawn by K.Tatsuno 1st May 1878"、右下に "Josiah Conder Architect"、スケールに "Shaku" とある。

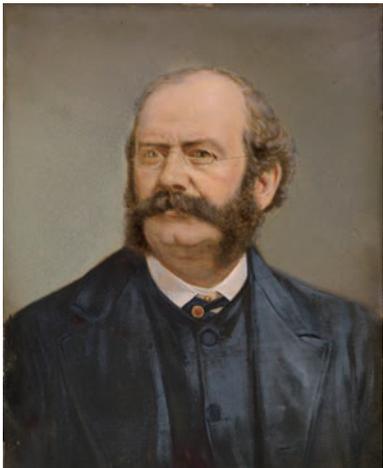


KAITAKUSHI'S SALE AND RECEPTION ROOMS No.3 ワットマン紙・墨入・彩色、100×65、縮尺 1/50

左図下に "GROUND PLAN"、右図下に "UPPER PLAN"、左下に "Drawn by K.Tatsuno 27th April 1878"、右下に "Josiah Conder Architect"、スケールに "Shaku" とある。1階には "SALE ROOM"3部屋と "OFFICE"1部屋、2階は "DINING ROOM"、"BILLIARD ROOM"、"DRAWING ROOM"、"BED ROOM" が各1部屋書かれ、2階は饗応室としてつくられたことがわかる。

(2) ウィリアム・バージェス

辰野金吾は官費留学生としてロンドンへ留学した際、1880年秋からイギリス人建築家ウィリアム・バージェスから事務所の実地見習生として多くを学んだが、翌年春にバージェスは亡くなった。



ウィリアム・バージェス

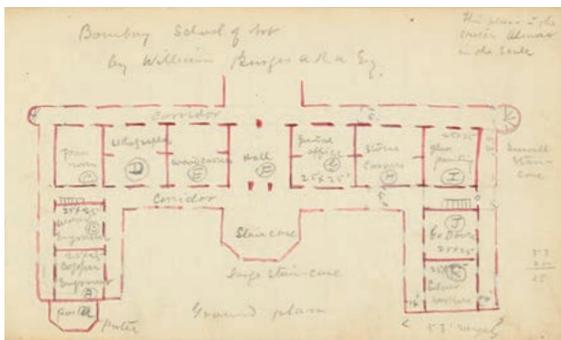
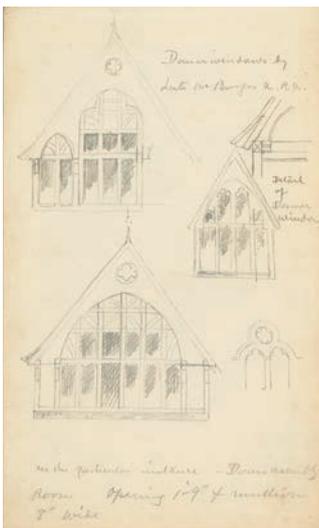
William Burges 1827-1881年
National Portrait Gallery, London

ウィリアム・バージェスは、ロンドン大学キングス・カレッジに学び、イギリスのゴシック・リヴァイバルの建築家であり、家具などのデザイナーでもあった。
コンドルもバージェスに学んでいる。



バージェス自邸 (タワーハウス)

バージェス設計 1878年 ロンドン

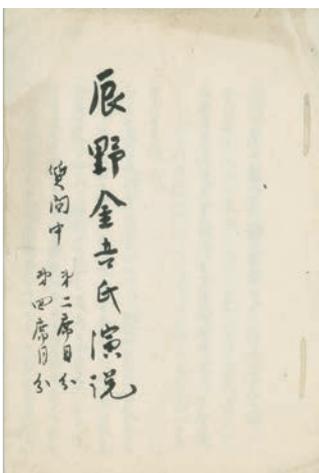


バージェス設計の建築に関するメモ

(『辰野金吾滞欧野帳』①より)

辰野家蔵

辰野のスケッチブックにはハーロウ校講堂やカーディフ城などバージェス設計の建築に関する記録が多く見られる。

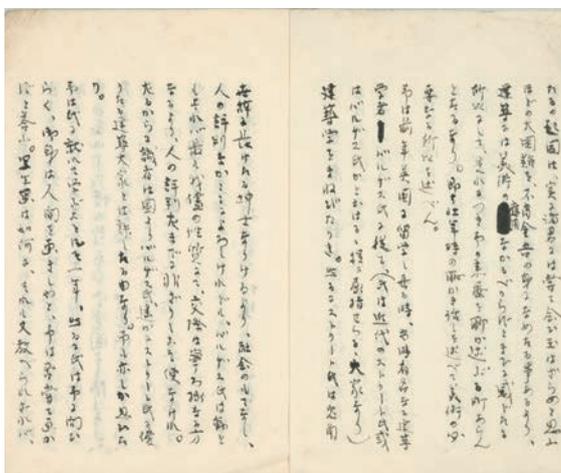


辰野金吾氏演説

1890年6月

辰野家蔵

造家学会（建築学会の前身）の講演会での質疑の際の辰野金吾の演説。バージェスから人物画や写生画が重要であることを教えられ、バージェスから資金援助を受け、人物画などを学ぶため「画学校」へ通ったことが記されている。



辰野金吾写生画

(『辰野金吾滞欧野帳』①より)

辰野家蔵

4. 2度の海外渡航

辰野金吾は官費留学生としてイギリスへ留学した。帰国後、コンドルに替わり工部大学校教授となり、日本人として初めて建築学を教えた。

その後日本銀行本店の設計の際にもアメリカ、そして再びイギリス等ヨーロッパの国々の視察を行った。そこで見た欧米の建築技術は日本銀行建築だけでなく、その後の建築家辰野金吾の糧となった。



(1) 官費留学生として

辰野は1880年3月から2年間でロンドンで過ごした。まず、ロンドン大学教授でコンドルの叔父でもあるロジャー・スミスの紹介により、キュービット建築会社で5ヶ月間実地研修を受けた。

その後9月から建築家ウィリアム・バージェスの事務所の実地見習生として学んだが、翌年4月にバージェスは亡くなった。また1880年10月よりロンドン大学およびロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで建築と美術を学んだ。

留学期間：1880（明治13）年2月～1883（明治16）年5月



辰野金吾 旅券 1880年1月

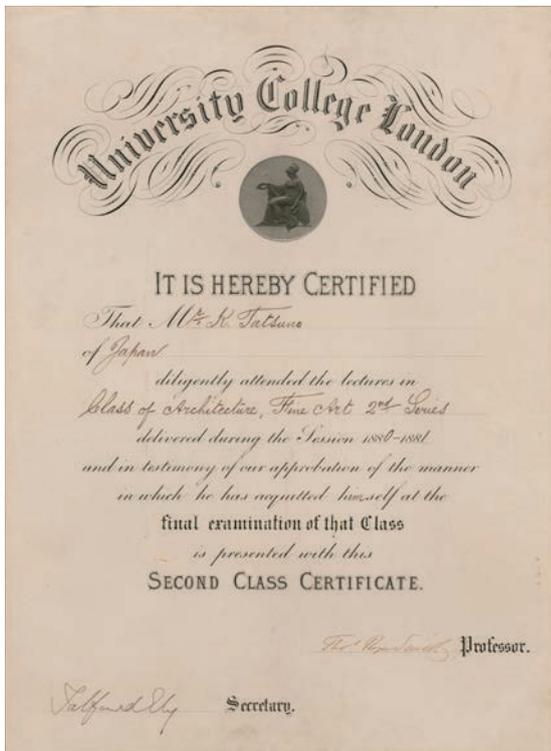
東京大学蔵（旧辰野家資料）

「造家学修業として欧州へ赴く」と書かれている。

英国倫敦府実況第一回

1880年7月

東京大学蔵（旧辰野家資料）



辰野金吾 ロンドン大学修了証 1881年 東京大学蔵（旧辰野家資料）

University College London, Class of Architecture, Fine Art 2nd Series の修了証。

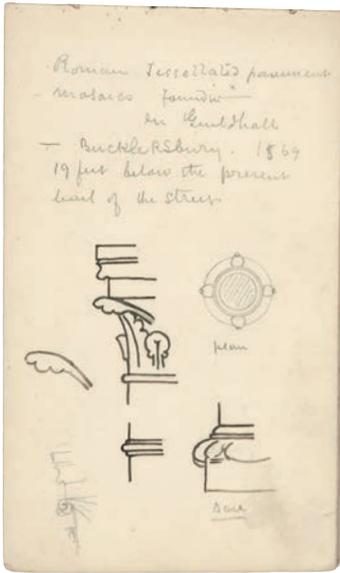


辰野金吾のロンドンの居住地

イギリス留学中、辰野金吾は度々住まいを変えている。

柱頭などの装飾のスケッチ (『辰野金吾滞欧野帳』より)

4冊のスケッチブックの中で、辰野金吾は柱頭など建物細部のスケッチを数多く残している。これらのスケッチを重ね、後に日本銀行本館のコリント式の柱頭をデザインすることになる。



①



②



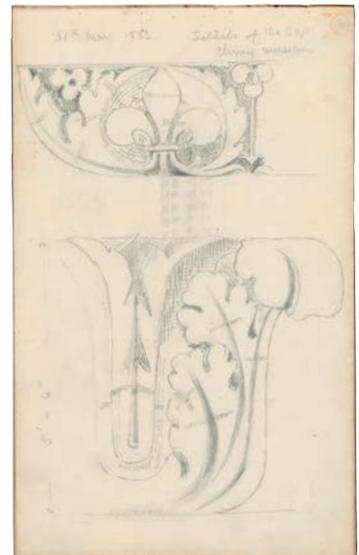
日本銀行本店本館の
3階部分の柱頭



②



②



②



②



③



④



辰野金吾渡欧時のトランク
辰野家蔵

日本に近代建築を築く 建築教育界の育成と学会の設立

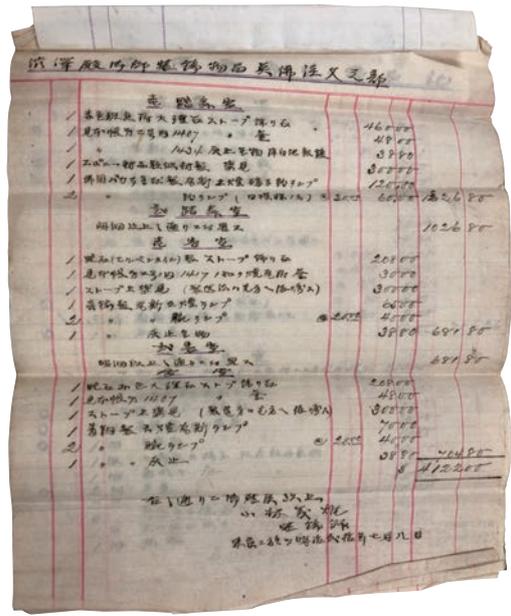
留学から帰国後、コンドルの後任として工部大学校（1886年より帝国大学工科大学）の教授となり、日本人による建築学の教育がスタートした。また、1886年の造家学会（現在の日本建築学会）設立にあたっては、辰野金吾は主要メンバーであった。また銀行集会所（1885年）や帝国大学工科大学本館、渋沢栄一郎などいくつかの初期作品を手がけている。



帝国大学工科大学本館 1888年竣工
東京大学建築学専攻蔵



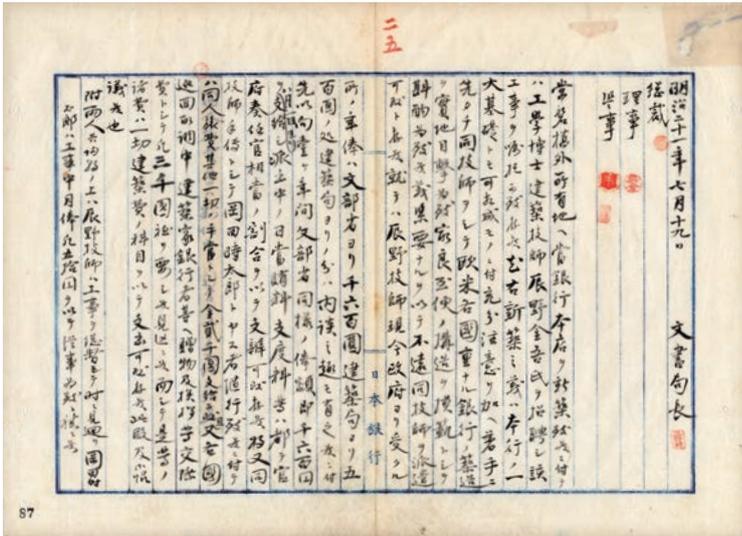
渋沢栄一郎 1888年竣工 「江戸橋ヨリ鑑橋遠景」井上安治 画 900115
兜町の日本橋川沿いにヴェネツィアン・ゴシック様式を取り入れて建てられた。



渋沢栄一郎室内装飾注文書類 辰野家蔵
後に日本銀行の室内装飾も手がけた小林義雄による。

(2) 日本銀行設計に向けた欧米視察

日本銀行本店の設計に先行して、同郷の随行員岡田時太郎と共に欧米各国の銀行建築を視察した。同時に政府より官庁建築の調査も委嘱された。



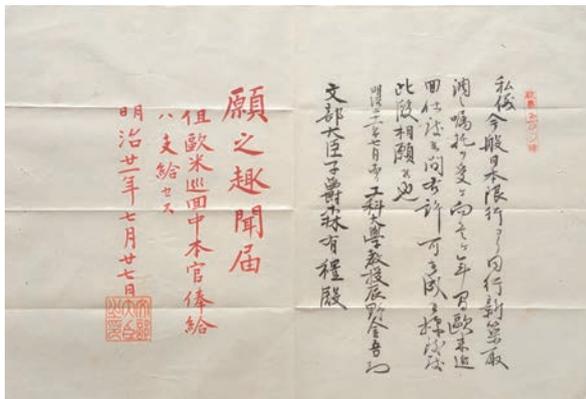
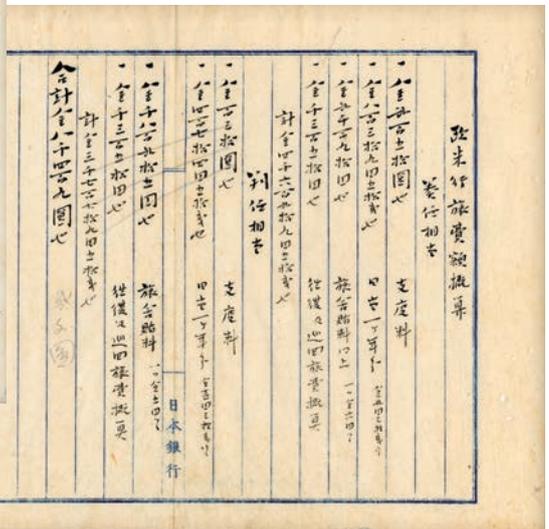
辰野金吾・岡田時太郎の欧米視察に関する

予算等の日本銀行決裁文書

1888年7月19日

本店新築にあたり「工学博士建築技師辰野金吾」を「欧米各国重ナル銀行ノ築造」を視察するため派遣すること、「技師手伝トシテ岡田時太郎」を随行させることとその間の賃金や費用について日本銀行総裁富田鐵之助が決裁した資料。

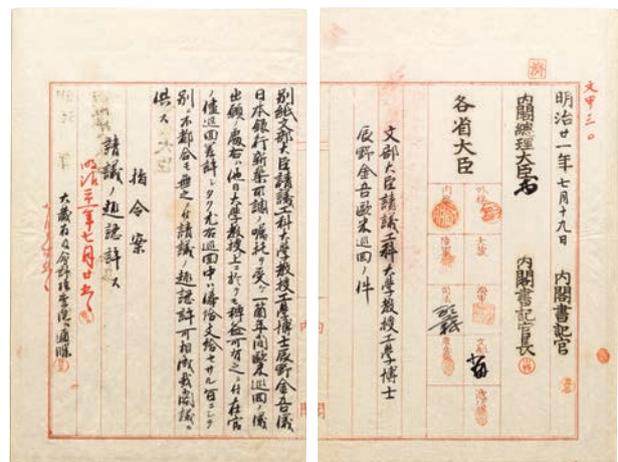
本店本館の建設やその設計にあたった辰野金吾に関わる資料は殆どが関東大震災で失われ、欧米視察時のことも詳細は不明である。



辰野金吾 欧米巡回願出 決裁文書

1888年7月27日 東京大学蔵 (旧辰野家資料)

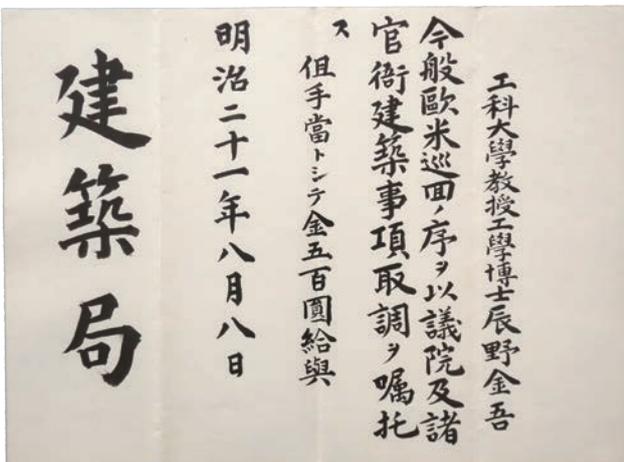
工科大学教授辰野金吾が「日本銀行新築取調」の囑託を受け、欧米巡回に行くことを文部大臣森有礼へ願ひ出て、許可されたもの。



文部大臣講議工科大学教授工学博士辰野金吾欧米巡回ノ件

1888年7月25日 国立公文書館蔵 (00112100)

内閣の決裁文書。欧米に巡回することが「他日大学教授上ニ於テモ裨益可有之ニ付」教員のまま巡回することを許可するとしている。



建築局による欧米巡回時の議院及諸官衙建築取調の委嘱辞令

1888年8月8日 東京大学蔵 (旧辰野家資料)

1886年、政府は井上馨を総裁とする内閣直属の臨時建築局を設置し、西欧の中央官庁街に倣った官庁街の建設を目指した(いわゆる「官庁集中計画」)。そうした中で日本銀行設計のため欧米視察に旅立つことになった辰野金吾は、出発直前にそのための調査も委嘱された。

ベルギー国立銀行 National Bank of Belgium

ベルギー国立銀行を設計した建築家アンリ・ベイヤール（1823-1894年）の事務所に3週間ほど滞在し、ベルギー国立銀行について学び、同行アントワープ支店も視察している。その後、本店設計の原案をロンドンで作成し、ベイヤールに相談したという。



アンリ・
ベイヤール
Henri Beyaert
100 ベルギーフラン
(通用停止)



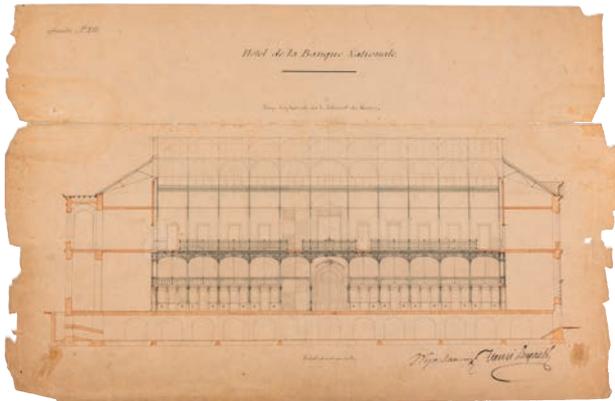
ベルギー国立銀行 本店 ベイヤール設計



ベイヤールを顕彰した彫刻
(ベルギー国立銀行内、現存せず)
Museum of the National Bank of Belgium,
Brussels 蔵



ベルギー国立銀行 本店 (総裁公邸)



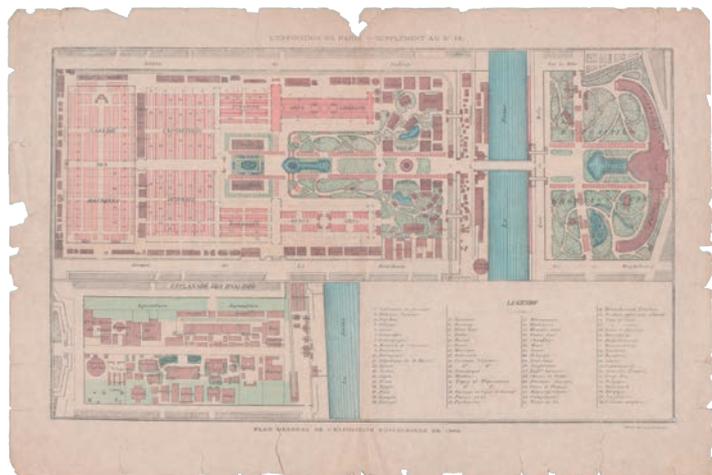
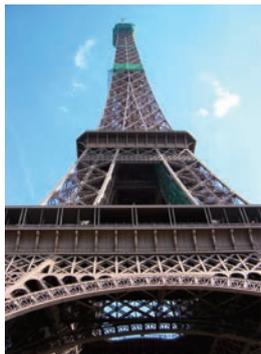
ベイヤールによるベルギー国立銀行 設計図
Museum of the National Bank of Belgium, Brussels 蔵



ベルギー国立銀行 アントワープ支店 ベイヤール設計

パリ万国博覧会

辰野金吾は視察の最後に 1889 年 5 月から開催されたパリ万国博覧会を訪れた。この万博に際して 19 世紀の工業技術の発展の象徴ともいえるエッフェル塔が建設された。



辰野金吾が持ち帰ったパリ万国博覧会地図 辰野家蔵

欧米視察時の家族への手紙

日本銀行設計に向けた欧米視察時の辰野金吾による調査記録は、関東大震災で焼失したと考えられるが、辰野家に家族宛に出された私信が残されている。



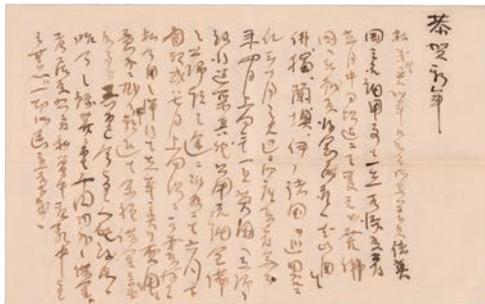
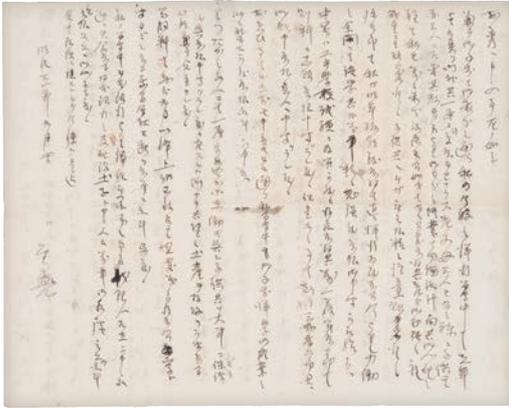
アメリカより 1888年9月4日

表面は父宛に旅の行程のこと、裏面は妻宛に家族の心配や日本銀行からの俸給受取手続きについて主に書かれている。



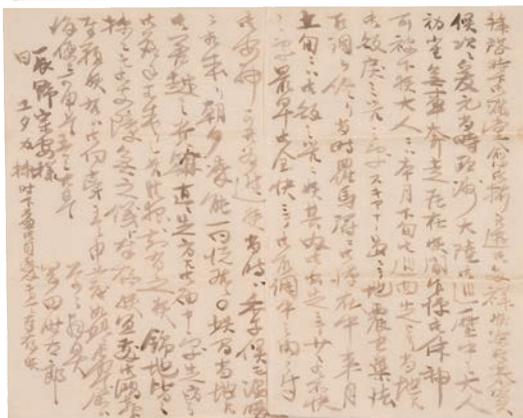
リバプールより 1888年12月7日

「昨今は英国大美術会有之候ニ付、私モ其会員トナリ」と留学時以来の美術への関心の高さが見える。またこの時点で旅費不足に言及している。



ロンドンより(恭賀新年) 1889年1月7日

銀行建築の調査のため中旬より「仏、独、蘭、奥、伊ノ諸国ヲ巡回」予定であること、「今回ノ洋行ハ先年ニ異リ、費用モ意外ニ掛リ」と経費がかかり心配であることが述べられている。

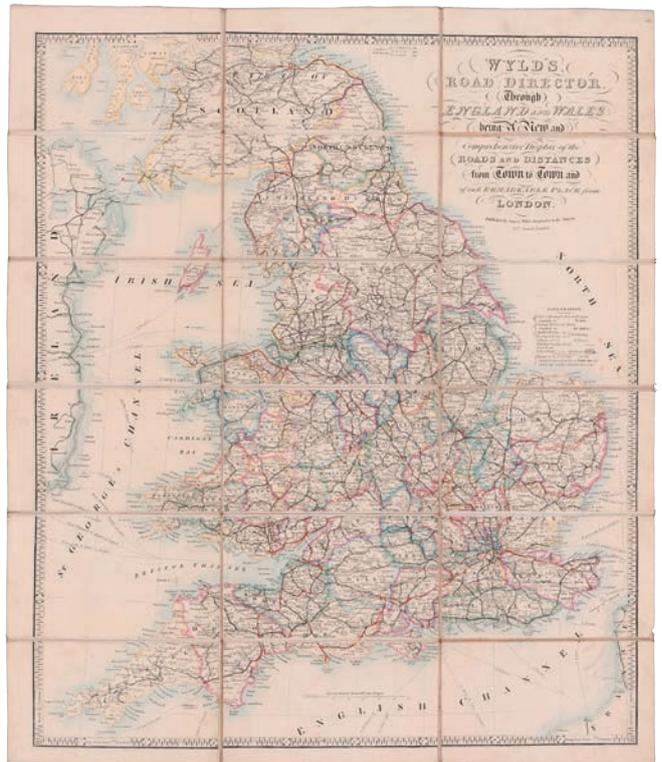


ロンドンより岡田時太郎から辰野家族宛書簡

1889年5月25日

随行した同郷の岡田より辰野家に出した手紙。「本月下旬、御巡回先ヨリ当地へ御帰戻之管之處、スキヤナー島ニテ地震建築法取調ヲ終リ」と地震の多いイスキア島での地震調査のことと熱病になったが快復したことなどが述べられている。

辰野金吾からも5月21日にローマから家族宛に手紙が出されており、「地震建築構造取調」をしていた際に熱病になってしまったことなどが述べられている。



イギリスの地図

ロンドンからカーディフやドーバーなどへ赤線が引かれており、辰野金吾が訪問地や訪問予定地などを記したと考えられる。

本ページ資料全て辰野家蔵